

## 4. 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ資料集（左甚五郎編）

### 4-1 飛騨匠神社 （77点）



飛騨の高山でこれらの人たちを祀る「飛騨匠神社」が、堀端町、飛騨護国神社境内に出来上がった。左甚五郎はじめ多くの棟梁工人をうみ「飛騨匠」の名を残している神社は小さなつくりだが、出来ばえは精密なもの。そのうえ、この神社の建設は明治維新以来飛騨匠の伝統を継ぐ人たちの宿題となっていただけに関係者の喜びはひとしお。



### 4-2 飛騨一宮水無神社 （555点）



飛騨一円を崇敬者とし、除夜祭・歳旦祭は飛騨一円を始め県内外からの参拝者が多い。例祭は5月2日、ひなまつりは4月3日で日本唯一の「生きびな祭」として有名である。創立年代は不詳、祭神は水無大神など、位山を「神体山」としている。

第38代天智天皇の8年（669）、位山の櫨材で作られた笏を朝廷に献上してから、櫨に一位の樹名を賜わり、山は位山と称するようになった。



### 4-3 久津八幡宮 （204点）



仁徳天皇65年（377）勅命により難波子武振熊命が飛騨国の両面宿儺を征討の途次應神天皇の霊を奉祀したのを創祀とし平治の乱（259）役募兵のため飛騨に入国した源義平が鶴岡八幡宮の神霊を勧請奉斎したのを當宮の鎮座とする。

古くから飛騨二の宮南飛騨総鎮守と称され飛騨国中はもとより越中、美濃からも厚く崇敬されている。



### 4-4 上野東照宮 （127点）



上野東照宮は1627年創建の東京都台東区上野公園に鎮座する神社です。東照宮とは徳川家康公（東照大権現）を神様としてお祀りする神社で、日光や久能山の他、全国に数多くございます。当宮は出世、勝利、健康長寿に特に御利益があるとされ信仰されています。金色殿（社殿）などの豪華な建造物は、戦争や地震にも崩壊を免れた貴重な江戸初期建築として国の重要文化財に指定されており、国内はもとより、海外からも多くの方がお参りされます。



4 - 5 日光東照宮 (150点)



日光東照宮は、元和3年(1617)徳川初代将軍徳川家康公を御祭神におまつりした神社です。

家康公は、元和2年4月17日駿府城(静岡県静岡市)で75歳の生涯を終えられ、直ちに久能山に神葬されました。そして御遺言により、一年後の元和3年4月15日、久能山より現在の地に移されおまつりされました。



4 - 6 飛騨匠伝説(郡上・立花六角堂) (19点)



旧郡上街道地蔵坂峠に建つ立花六角堂は、由緒書きによると応長元年(1311)飛騨の大工匠頭肥前権守藤原朝臣宗康が御堂を建て直したとある。



4 - 7 龍門寺 (94点)



1308年、岐阜長良に輪番制の寺として、福光山龍門寺が創建されました。戦国時代に兵火により焼失しましたが、創建後150年ほど後に、当地に移転されました。現在は臨済宗妙心寺派の寺となっております。なお本堂は1830年に建築されたものです。



4 - 8 安楽寺 (174点)



昔、当地の領主だった吉見兵庫介が北国に移ることになり、行基菩薩から授かった観音像も持っていこうとしたが、石のように動かなくなった。そのため、石櫃に入れて岩窟のなかに納めた。



4 - 9 秩父神社 (190点)



秩父神社のご創建は、平安初期の典籍『先代旧事紀一國造本紀一』によれば、第十代崇神天皇の御代に知知夫国の初代国造に任命された八意思兼命の十世の子孫である知知夫彦命が、祖神をお祀りしたことに始まるとされており、武蔵国成立以前より栄えた知知夫国の総鎮守として現在に至っています。



4 - 1 0 東福寺 (124点)



弘法大師が開山したといわれ由緒ある真言宗の寺です。古い歴史を持つだけに流山市指定の文化財が数多くあります。千仏堂には約千体の仏像が安置され、左右には小さな阿弥陀如来像が安置されています。中尊は死んだ人を迎える来迎印を結んだ阿弥陀如来立像で、口を少しあけた「齒吹き」の弥陀で、江戸時代に作られたものです。千体もの阿弥陀像が安置されるのは、大変珍しいものです。また、近年中尊の台座から多数の結縁交名札が発見され、当時の信仰を知る貴重な資料です。



4 - 1 1 大門神社 (85点)



大門神社は住吉十二所社と称し旧大門村、下野田村の鎮守の神として下野田に鎮座せしものと伝ふれどその記録又は、旧蹟等も認められずに、古来より現今の神域に鎮座せしものと推考される。明治初年、神仏分離令により、明治六年四月大門村村主に列せられる。明治四十年六月十四日大字大門地内、下野田地内、玄蕃新田地内に鎮座せる神社（十社）を合祀し以って十二所社の社号を宗教法人大門神社と改称す。



4 - 1 2 国昌寺 (129点)



国昌寺は、曹洞宗の寺で大崎山といい、染谷（大宮市）常泉寺の末寺で、徳川家光から寺領 10 石の朱印地が寄贈されている。開山は心巖宗智で、中興開山は能書家としても著名な大雲文龍である。山門は、江戸時代中期（宝暦頃）の建築で、市指定文化財である。欄間の龍は、左甚五郎の作と伝えられるもので、棺を担いでこの門をくぐり抜けると、龍に中身を喰われて軽くなるという伝説をもっている。



4 - 1 3 紀州東照宮 (252点)



紀州東照宮は、和歌山県和歌山市和歌浦に鎮座する神社。江戸幕府初代将軍徳川家康を神格化した東照大権現と紀州藩初代藩主徳川頼宣を神格化した南龍大神を祀る。

元和7年(1621)、頼宣が南海道の総鎮護として創建された社殿は、「関西の日光」とも呼ばれ、権現(ごんげん)造りとなっています。

また、江戸初期の代表的な重要文化財建造物としても有名です。



4 - 1 4 定光寺 (152点)



定光寺は、愛知県瀬戸市定光寺町にある臨済宗妙心寺派の寺院。山号は応夢山。本尊は延命地藏願王菩薩(地藏菩薩)。桜や紅葉の名所としても知られている。寺域に隣接して尾張徳川家初代徳川義直の廟所である源敬公廟があるが、尾張徳川家の菩提寺ではない。

廟所参道第一門である「獅子門」の左右には左甚五郎作といわれる獅子の彫刻が一面に施されている。獅子の彫刻は、聖域の守護という意味を持つことから、廟を守る第一門に刻まれたといわれている。



4 - 1 5 龍潭寺 (256点)



風光明媚な奥浜名湖その北に位置し、豊かな自然、緑と花に抱かれた町、浜松市井伊谷、そこに萬松山龍潭寺がある。

この井伊谷地域は、古くは「井の国の大王」が聖水祭祀をつとめた「井の国」の中心で、浜名湖の注ぐ井伊谷川、神宮寺川の沿っての台地には縄文・弥生の遺跡、古墳が数多く残され、水にまつわる伝説も多い。

特に当地の歴史と、当寺の縁起にゆかり深いのが、「共保出生の井戸」である。



4 - 1 6 粉河寺 (153点)



宝亀元年(770年)のある日、獵師の大伴孔子古が山中で靈光を發する場所を見た。靈光を見た孔子古はこの地が靈地に違いないと考え、ここに小堂を建立したと伝えられている。

この小堂に童男大士が訪れ、七日間、堂に籠もって仏像を刻み、これを本尊にするようにと孔子古に与えたといわれており、翌日、童男大士が去ると、その仏像は金色に輝く観世音菩薩になったという。孔子古は童男大士こそ観世音の化身と考え、以後、殺生をやめ供養礼拝したといわれ、これが粉河寺の創始と伝えられている。



4 - 1 7 米倉寺 (118点)



米倉寺の本堂に、左甚五郎の作といわれる雌雄の龍がある。あるとき、この二頭が喉を潤すため、葛川に出て水を飲み、のそのそ寺に帰ろうとすると、洗濯婆さんに出会った。

婆さんは驚きのあまり腰を抜かし、しばらくは口もきけぬ有様であったそう。このことがあって、再び龍が外出しないように、二頭とも両眼を鋸でひき潰したので、その歯跡が残っているという。



4 - 1 8 桃原寺 (39点)



浄土真宗本願寺派慶谷山桃原寺は口承によれば、1000～1200年ほど前に遡ると言われ、創建の地とされる医王山(富山県と石川県の県境)には「桃原寺」という地名が残っています。その後、その後早月川上流の虎谷、角川下流の慶野から現在地へ移ってきました。永正7年(1510)虎谷の地に仏閣があったところに真言宗から浄土真宗へ改宗しました。



4 - 1 9 長国寺 (113点)



真田家の菩提寺

真田山の山号を持つ、真田家の菩提寺。真田家歴代藩主の墓があるほか、信之、信弘の御霊屋があります。信之の御霊屋は重要文化財に指定されており、破風の鶴は左甚五郎、格天井の絵は狩野探幽筆と伝えられています。



4 - 2 0 誕生寺 (127点)



誕生寺は、日家上人により建治2年(1276)に創建したと伝えられる日蓮宗の寺院で、明応7年8月(1498)と元禄16年(1680)に地震と津波により七堂伽藍を失う被害を受けた。その後再建された現存の仁王門は、宝永3年(1706)に建立されたものである。仁王門は5間3戸の楼閣門で、下層に和様三手先、上層に唐様三手先の組物を持ち、本臺股の中備としている。いくつかの装飾の中でも、楼上に見える般若の彫刻は左甚五郎の作と伝えられている。



4-2 1 神野寺 (188点)



神野寺は、房総三山の一つで、信仰と伝説の山として知られる鹿野山上に建つ真言宗智山派の古刹です。広い境内は雄大な規模を誇っています。寺伝では聖徳太子によって創建されたといわれています。杉木立に囲まれた境内には仁王門、本堂、経堂、六角堂、鐘楼堂、五重の石塔などがあります。運慶、左甚五郎の作といわれる彫刻や国の重要文化財である表門などがあり、由緒ある寺として知られています。



4-2 2 浄願寺 (77点)



太平洋戦争中に供出された梵鐘は<吉原鐘>と呼ばれ、1799年に住職と江戸吉原の人々と縁あって、浅草や吉原の人々から贈られた鐘であった。

その由来を書いた掛軸は今も残されている。歌人・北原白秋が戦前に浄願寺に立ち寄った際に詠んだ句碑がある。

<梅雨はれて吉原鐘に人のほる>

浄願寺は親鸞聖人の弟子によって開創されたと伝えられ、1469年現在地に移転したといわれている。



4-2 3 書写山圓教寺 (555点)



西国三十三所のうち最大規模の寺院で、「西の比叡山」と呼ばれるほど寺格は高く、中世には、比叡山、大山とともに天台宗の三大道場と称された巨刹である。京都から遠い土地にありながら、皇族や貴族の信仰も篤く、訪れる天皇・法皇も多かった。

境内は、仁王門から十妙院にかけての「東谷」、摩尼殿(観音堂)を中心とした「中谷」、3つの堂(三之堂)や奥の院のある「西谷」に区分される。



4-2 4 熊野速玉大社 (466点)



熊野速玉大社は、和歌山県新宮市新宮1にある神社。熊野三山の一つ。

熊野速玉大神と熊野夫須美大神を主祭神とする。

境内地は国の史跡「熊野三山」の一部。2002年(平成14年)12月19日、熊野三山が史跡「熊野参詣道」から分離・名称変更された際に、御船島を含む熊野速玉大社境内が追加指定された。

2004年(平成16年)7月に登録されたユネスコの世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の構成資産・大峯奥駈道の一部。



4 - 2 5 西橋寺 (139点)



天文年間、上舟岡に阿弥陀堂と称する草庵があった。関東 18 檀林の一つ武州鴻巣の勝願寺（埼玉県）の則伴頭を務め諸国を回っていた寂湛が、天正 10 年（1582）当所に一字を造立した。現在の建物は享保 5 年（1720）造営のもの。切口 8 畳敷の檜 1 本で造られたといわれる。本堂向拝の上に左甚五郎作といわれる兔の彫刻がある。



4 - 2 6 出雲大社 (248点)



出雲大社は、島根県出雲市大社町杵築東にある神社。祭神は大国主大神。式内社（名神大）、出雲国一宮で旧社格は官幣大社。神社本庁の別表神社。宗教法人出雲大社教の宗祠。二拝四拍手一拝の作法で拝礼する。明治維新に伴う近代社格制度下において唯一「大社」を名乗る神社であった。

八足門は蛙股の瑞獣や流水文などの彫刻が施され、左甚五郎の作と云われる。



4 - 2 7 方広寺 (85点)



方広寺は、京都府京都市東山区にある天台宗の寺院。通称は「大仏」または「大仏殿」。豊臣秀吉が発願した大仏（盧舎那仏）を安置するための寺として木食応其によって創建された。



4 - 2 8 知恩院 (119点)



知恩院は、浄土宗の宗祖・法然房源空（法然）が東山吉水、現在の知恩院勢至堂付近に営んだ草庵をその起源とする。

応仁元年（1467 年）に始まった応仁の乱の際には、知恩院 22 世珠琳が現在の滋賀県大津市にある金蓮寺に避難、その後現在の津市内に新知恩院を建立した [1]。そして、文明 10 年（1478 年）に知恩院を再興するが、永正 14 年（1517 年）にも消失する。



4 - 2 9 石清水八幡宮 (149点)



■八幡造り御本殿

国家鎮護の社として都の裏鬼門に位置する男山山上に御鎮座されてより 1150 年以上の間、時の為政者を始め、幾多の人々の祈りが捧げられ、篤い崇敬を受けてきた当宮の根本である本殿は貞観元(859)年、木工寮権允・橘良基は清和天皇の勅命により六宇の宝殿を建立し、順次「八幡造り」の社殿を完成させるに至りました。

以来、造営 14 度・修理 17 度におよび、現在の社殿は寛永 11(1634)年、徳川三代将軍家光公の修造によるものです。



4 - 3 0 誠照寺 (211点)



親鸞聖人ゆかりの寺で、真宗誠照寺派本山で越前四箇本山の一つ。御影堂は木造建物では県内最大規模を誇ります。山門は四足門で「鳥棲まづの門」とも言われ、左甚五郎作と伝えられる彫刻「駆け出しの龍」は特に有名です。



4 - 3 1 成相寺 (120点)



成相寺は日本三景天橋立を眼下に望む景勝地にあり、元々は日本古来の山岳宗教の修験場で、日本全国にある五つの「聖の住む所」の一つとして信仰を集めてまいりました。慶雲元年(704)に文武天皇の勅願寺として真応上人が創建したと伝えられ、本尊は身代わり観音、美人観音として名高い聖観世音菩薩です。

境内には悲話を伝える「撞かざる鐘」、奇怪な話の「底なし池」、左甚五郎作の「真向の龍」などがあり、しゃくなげの名所でもあります。



4 - 3 2 園城寺(三井寺) (317点)



天台宗門宗の総本山。境内に天智・天武・持統の三天皇の御産湯に用いられたとされる霊泉(井戸)があることから、「御井の寺」と称され、後に「三井寺」と通称されるようになった。国宝の金堂を始め、西国第十四番札所の観音堂、釈迦堂、唐院など多くの堂舎が建ち並び、国宝・重要文化財は 100 余点を数える。「閻伽井屋」の正面上部に左甚五郎の作と伝えられている「龍の彫刻」がある。



4 - 3 3 圓明寺 (506点)



圓明寺には、アメリカ人巡礼者が発見した四国霊場最古の銅板納札が保存されている。

大正 13 年 3 月、シカゴ大学のスタール博士が四国遍路をしている途次、寺の本尊・阿弥陀如来像を安置している厨子に打ち付けてあったのを見つけた。

そして本尊阿弥陀三尊仏像の両脇に侍立する観音・勢至の両菩薩像は鎌倉時代の作で、県指定有形文化財です。



4 - 3 4 北口本宮富士浅間神社 (244点)



景行天皇 40 (西暦 110 年)、日本武尊ご東征の折、足柄の坂本 (相模国) より酒折宮 (甲斐国) へ向かう途中で当地「大塚丘」にお立ち寄りになられ、そこから富士の神霊を親しく仰ぎ拝され「北方に美しく広がる裾野をもつ富士は、この地より拝すべし」と仰せになりました。よって大鳥居が建てられ、大塚丘に浅間大神と日本武尊をお祀りし、当社の創建となりました。



4 - 3 5 酒列磯前神社 (217点)



『文徳実録』によると、文徳天皇の斉衡 3 年 (856 年) 12 月 29 日に常陸国鹿島郡大洗磯前に御祭神大己貴命・少彦名命が御降臨になり、塩焼き (塩を精製する者) の一人に神がかりして、「我は大奈母知、少比古奈命なり。昔此の国を造り訖へて、去りて東海に往きけり。今民を済わんが為、亦帰り来たれり」と託宣され、当社「酒列磯前神社」が創建され、また現在の東茨城郡大洗町には「大洗磯前神社」が祀られました。



4 - 3 6 鳥追観音 (如法寺) (179点)



如法寺は、福島県耶麻郡西会津町野沢字如法寺にある真言宗室生寺派の寺院。山号は金剛山。本尊は聖観世音菩薩。この寺には境内に観音堂があり、「鳥追観音」の名で知られる。会津ころり三観音のひとつ。鳥追観音如法寺は、仏都会津の祖・徳一大師が、千二百年前の平安初期大同 2 年 (807) に、会津の西方浄土として御開創なされた屈指の観音霊場であります。



4 - 3 7 浮島観音堂 (240点)



浮島観音堂は平安初期の延暦14年(西暦795年)に観音不動毘沙門大師が創設し、その後、文明8年(1469年)に小海住真海師が本尊を再興。さらに天文3年(1534年)に御堂再造されましたが、老朽が甚だしく昭和59年5月にほぼ原型のまま新築されて現在に至ります。堂内には、日光東照宮にある有名な『眠り猫』をはじめ、各地で数々の彫刻を完成させた名匠・左甚五郎作と伝わる「浮島如意輪観音」が安置されています。



4 - 3 8 願成院本堂 (愛染堂) (493点)



願成院本堂は、竹田市街地の西側の八幡山の中腹に建ち、愛染堂として親しまれている。この建物は、一重、宝形造、本瓦葺の三間堂で周囲に高欄をめぐらせており、組物を禅宗様三手先、軒を扇垂木にするなど本格的な手法を取っている。

愛染堂は、JR豊後竹田駅から徒歩5分位です。観音寺の石段を上りつめたところです。



4 - 3 9 瑞巖寺 (394点)



天長5年(828)、慈覚大師円仁によって開創された奥州随一の古刹で、延福寺と呼ばれていました。延福の寺号は天台宗の総本山、延暦寺に由来します。正元元年頃(1259)臨済宗に変わり寺名も円福寺へと改名されました。

現在の建物は、慶長14年(1609)、伊達政宗公が桃山様式の粋をつくし、5年の歳月をかけて完成させたものです。



4 - 4 0 手力雄神社 (162点)



社伝には5世紀末期ごろ中里(今の岐阜県各務原市那加地区)を支配していた豪族により、山の中腹に磐座祭祀として神様を祭ったのが始まりとされます。

美濃國神明帳に、真幣明神のご神名が見られお祀りされていたご祭神がそれと見られる。

主祭神手力雄神は、古くは佐良木郷八ヶ村の山中に祀られていたのを、後に現社地に奉還され佐良木郷の産土神として崇敬されたと伝わります。



4 - 4 1 根来寺 (294点)



平安時代後期の高野山の僧で空海以来の学僧といわれた覚鑿が大治5年(1130年)に高野山内に一堂を建て、伝法院と称したことに始まる。鳥羽上皇は覚鑿に帰依し、荘園を寄進するなど手厚く保護した。2年後の長承元年(1132年)、覚鑿は鳥羽上皇の院宣を得て、高野山に大伝法院と密厳院を建立した。さらに2年後の長承3年(1134年)、覚鑿は金剛峯寺座主に就任し、高野山全体を統轄する強大な勢力をもつに至る。



4 - 4 2 北野天満宮 (225点)



天曆元年(947)に創建された、全国に約1万2000社ある天神社・天満宮の総本社。平安時代に学者・政治家として活躍した菅原道真公を御祭神とし、現在は学問の神様としての信仰が厚いため、多くの受験生らが参拝に訪れる。国宝である御本殿は豊臣秀頼公が造営したもので、八棟造と称される絢爛豪華な桃山建築。毎月25日の縁日には宝物殿の特別公開が行われ、境内には多くの露店が立ち並んでにぎわいを見せる。また、梅と紅葉の名所としても名高い。



4 - 4 3 豊国神社 (141点)



慶長3年8月18日(1598年9月18日)に亡くなった豊臣秀吉の遺体は火葬されることなく伏見城内に安置されていたが、死去の翌年の慶長4年(1599年)4月13日、遺命により東山大仏(方広寺)の東方の阿弥陀ヶ峰山頂に埋葬され(『義演准后日記』・『戸田左門覚書』)、その麓に高野山の木食応其によって廟所が建立されたのに始まる。



4 - 4 4 鶉田神社 (115点)



宝亀二年創祀。天武天皇の第三皇子一品舍人親王の孫権中納言式部卿秀重、宝亀二年鶉の森を拓き、鶉の郷と名付け、郷内天王森に鎮守の祠を建て素盞鳴尊を祀れり。弘安四年蒙古来寇の時、御祈願の為勅使参向あり。平定の後、皇室より大床安坐の狛犬を下賜せらる。永禄年中織田信長、斉藤龍興征討の際戦勝祈願あり。斉藤滅亡の後紋所を寄進し、且つ社殿改築寄進あり。後光明天皇正保年中社殿炎上したれども、御神体及び大床安坐の狛犬のみ難を逃れたり。



4 - 4 5 加太春日神社 (121点)



加太春日神社の創建年代は明確ではないが、紀伊国造家旧記によると、神武天皇御東征の御代に、天道根命が神寶二種を奉じて加太浦に上陸、頓宮を造営して天照大御神を祀ったことに始まるという。

当地は海に面して漁業の盛んなところであるため、のちに航海安全と大漁を祈願する住吉神社を合祀したらしく、文保元年(1317年)6月29日付賀太庄住吉社への寄進状(向井家文書)が残されている。



4 - 4 6 西光寺 (84点)



寛文二年(1662年)本願寺第十三世良如上人より木仏(阿弥陀如来像)と寺号(西光寺)を下附されたと伝わる。当初しばらくは現在の大阪府八尾市にある恵光寺の末寺であったらしい。堂内正面にある鳳凰の欄間には、泉州貝塚左甚五郎伝子、岸上但馬守藤原朝臣定勝とある。本堂と山門は、昭和47年に記念事業の一環で改築され、当時としては珍しい鉄筋コンクリート建て銅葺き屋根である。



4 - 4 7 三十三間堂 (171点)



三十三間堂という名前は、南北120mに渡る大きな本堂の内陣に「33の柱間」があるという特徴から由来します。「三十三」という数字にも理由があり、観音様が人々の救済のため「三十三の姿に変化する」というエピソードに基づいています。

三十三間堂は蓮華王院の本堂として、1164年に平清盛の寄進により、後白河上皇の法住寺殿内に離宮として建てられました。



4 - 4 8 養源院 (313点)



豊臣秀吉の側室淀殿が父浅井長政の追善の為、長政の二十一回忌に建立される開山は長政の従弟で比叡山の高僧であった成伯法印、長政の院号を以って寺号としたのは文禄3年5月(1594年)である。

養源院の寺院名は浅井長政公の戒名そのものである。その後程なくして火災にあい焼失するも、元和7年(1621年)に淀殿の妹で二代将軍徳川秀忠公正室、お江により伏見城の遺構を用いて再建される。以来、徳川家の菩提所となり歴代将軍の位牌をまつる寺院となる。



4 - 4 9 祇園祭（月鉾）（193点）



鉾頭に新月型をつけているので、この名で呼ばれる。真木のなかほどの「天王座」には月読尊を祀る。古い鉾頭と天王の持つ櫛には「元亀4年（1573）6月吉日大鋸屋勘右衛門」の刻銘がある。また正徳4年（1714）の鉾頭もあるが昭和56年から田辺勇蔵氏寄進の18金製の鉾頭にかえている。屋根裏の金地彩色草花図は天明4年（1784）円山応挙（1733～95）の筆。天井の金地著彩源氏五十四帖扇面散図は天保6年（1835）に町内の住人岩城九右衛門の筆。



4 - 5 0 祇園祭（鯉山）（131点）



山の上に大きな鯉が跳躍しており、龍門の滝をのぼる鯉の奔放な勇姿をあらわしている。前面に朱塗鳥居をたて山の奥には朱塗の小祠を安置し素盞鳴尊を祀る。その脇から下がる白麻緒は滝に見立てられ、欄縁その他の金具はすべて波濤文様に統一されている。山を飾る前懸、胴懸（2枚）、水引（2枚）、見送は16世紀にベルギー・ブラッセルで製作された1枚の毛綴を裁断して用いたもので、重要文化財に指定されている。



4 - 5 1 祇園祭（八幡山）（84点）



町内に祀られている八幡宮を山の上に勧請したもので、常には町会所の庭にお宮を祀っている。山の上の小祠は総金箔の美しいもので天明年間（1781～1788）の製作といわれる。水引は今までの金地花鳥仙園図唐繡にかわって昭和61年より十長生図の刺繍が用いられている。「十長生」とは不老長寿を意味する。前懸は慶寿群仙図で元禄3年（1690）に寄進されたものを昭和62年に復元新調したのである。見送は日輪双鳳人物文様の綴錦と藍地雲龍文様蝦夷錦がある。



4 - 5 2 稲爪神社（178点）



兵庫県明石市大蔵本町に鎮座する神社です。式内社「宇留神社」および「伊和都比賣神社」を当社に比定する説があります。



4 - 5 3 出雲大社 2 (141 点)



出雲大社は、島根県出雲市大社町杵築東にある神社。祭神は大国主大神。式内社（名神大）、出雲国一宮で旧社格は官幣大社。神社本庁の別表神社。宗教法人出雲大社教の宗祠。二拝四拍手一拝の作法で拝礼する。明治維新に伴う近代社格制度下において唯一「大社」を名乗る神社であった。八足門は、南の瑞垣の正面中央に位置、御本殿に参進する入り口で、寛文 7 年（1667）の造営。この八足門には左甚五郎の作と伝えられる、瑞獣と流水文など美しい彫刻が施されています。一般の参拝は、この八足門までです。



4 - 5 4 泉福寺 (449 点)



泉福寺は、埼玉県桶川市にある天台宗の寺院である。山号は東叡山。院号は勅願院。房号は円頓房。本尊は阿弥陀如来および地藏菩薩。



4 - 5 5 聖福寺 (393 点)



旧日光街道沿いに今も残る聖福寺は菩提山東皐院と号し、浄土宗知恩院の末寺として応永年間（1394～1428 年）に開山したと伝えられています。江戸時代には将軍の日光社参の折りと、東照宮例大祭に天皇の代理で参拝した例幣使の帰路の休憩所に用いられ、山門は唐破風四脚門で将軍と例幣使以外は通行できなかったとされています。阿弥陀如来を本尊とし、運慶の作と伝えられる観音菩薩像が祀られ、境内には漢学者金子竹香の碑などが建てられています。



4 - 5 6 歓喜院 (871 点)



歓喜院は、埼玉県熊谷市妻沼にある高野山真言宗の仏教寺院である。日本三大聖天の一つとされる。一般的には山号に地名を冠した「妻沼聖天山」と呼称され、公式でも主にその名で案内される。また、「埼玉日光」（国宝に指定される前は「埼玉の小日光」）とも称されている。参拝客や地元住民からは「（妻沼の）聖天様」などと呼ばれている。



4 - 5 7 慈光寺 (148点)



慈光寺は、埼玉県比企郡ときがわ町にある天台宗の寺院である。山号は都幾山。院号は一乘法華院。本尊は千手観音で、坂東三十三観音第9番札所。



4 - 5 8 浄照寺 (481点)



ケヤキ彫りの欄間は左甚五郎（江戸時代の有名な彫刻職人）作との事です。

浅利町遅能戸のある浄照寺は鎌倉時代の建治元年（1275年）宗祖親鸞聖人の直弟子で関東六老僧の一人といわれた了海上人によって建立されました。

江戸時代（寛保3年）14世住職教応上人の時、寺基を現在の地である奥山遅能戸に移転しました。

本堂、庫裡等は全て当時のままの姿で残っている大変歴史深いお寺です。



4 - 5 9 上行寺 (88点)



上行寺は、1313年（正和2年）、日蓮の弟子の日範の創建。

本堂は、1886年（明治19年）に妙法寺の法華堂を移築したもので、格天井の絵は、細川氏の絵師によるもの。

本堂表欄間には「龍の彫り物」が施されており、山門には左甚五郎作とされる「龍の彫刻」も見られる。



4 - 6 0 瑞巖寺2 (227点)



瑞巖寺は、宮城県宮城郡松島町にある臨済宗妙心寺派の仏教寺院である。

日本三景の一つ、松島にあり、山号を含めた詳名は松島青龍山瑞巖円福禅寺。

平安時代の創建で、宗派と寺号は天台宗延福寺、臨済宗建長寺派円福寺、現在の臨済宗妙心寺派瑞巖寺と変遷した。古くは松島寺とも通称された。

江戸時代前期の1689年に俳人松尾芭蕉が参詣したことにちなみ、毎年11月第2日曜日には芭蕉祭が行われる。



4-6 1 大崎八幡宮 (210点)



大崎八幡宮は、宮城県仙台市青葉区八幡にある神社である。旧社格は村社。社殿（本殿・石の間・拝殿）は国宝に指定されており、どんと祭の裸参りで知られる。

創建年代は不明であるが、社伝では坂上田村麻呂が宇佐神宮を鎮守府胆沢城（現岩手県奥州市水沢）に勧請し鎮守府八幡宮と称したことに始まり、室町時代に入り奥州管領であった大崎氏が自領地内（現宮城県大崎市田尻町）に遷したため、大崎八幡宮と呼ばれるようになったという。



4-6 2 三十三間堂官衙遺跡 (44点)



三十三間堂官衙遺跡は、阿武隈川下流南岸の丘陵上に位置する、平安時代の亙理郡家跡と推定される遺跡である。昭和61年度から63年度にかけての亙理町教育委員会及び宮城県教育委員会の4次にわたる発掘調査によって、遺跡の性格、範囲、主要遺構とその変遷が明らかになった。



4-6 3 田沢磨崖仏（岩地蔵） (85点)



田沢磨崖仏（岩地蔵）は案内板によると「前方の阿武隈川に突出した岩塊に刻まれた磨崖仏群を田沢磨崖仏あるいは岩地蔵とよんでいる。

この付近には古墳時代末期の横穴墓群があり、後にこれからの横穴墓の幾つかを利用してこの磨崖仏が刻まれたものと思われる。

磨崖仏は鎌倉時代初めのもので、四窟からなり、四体の地蔵尊と三枚の板碑が刻まれている。この場所は古来、稲葉の渡したいわれた所で、阿武隈川を渡る重要な地点であった。

